

第16章 第一次大戦と大戦後のヨーロッパ 3. ファシズムの台頭

e、ナチス政権(2)p307~308

⑥ヒトラーの外交=[1]体制の破壊をすすめる

1933 [2]脱退、ザール併合

1935 [3]宣言、義務兵役制復活

1936 非武装地帯の[4]へ進駐→ロカルノ条約破棄

f、人民戦線の展開とスペイン内乱 (p295、p303、p310~11)

①コミンテルン… 1930代初期=社会民主主義主敵論を唱える

↓ファシズムの台頭

1935 [5]論を主張

→あらゆる反ファシズム=民主主義勢力との協力をはかる→各国共産党の政策転換へ

②フランス… 1934 右翼勢力の台頭→左翼勢力の危機感増大

↓

1935 仏ソ相互援助条約

1936 ブルム[6]内閣(社会党・急進社会党+共産党)の成立

③スペイン… 1931 王政の崩壊→以後、大地主・カトリック勢力と農民勢力などの対立

↓

1936 選挙で左翼連立による[7]内閣成立

↓

大地主・カトリック勢力・大資本家などの右派勢力の反発

→ [8]将軍の反乱(←ドイツ・イタリア・ポルトガルの支持・協力)

右派政権(～1934)

↓

[9]の勃発=英仏の不干渉政策、

ソ連・国際義勇軍の参加([10]やマルローら参加)

ドイツ軍による[11]への無差別爆撃の実施(=ピカソの画で有名)

↓

1939 フランコ、ファシズム政権の成立

→[12]年のフランコの死まで続く→以後、王政復活=民主的君主制へ

(p341)

4. 第2次世界大戦 a、第二次世界大戦の勃発

① 1936 ドイツ=イタリア枢軸の結成→[13]内戦に介入

1936 [14]協定→1937日独伊三国防共協定締結

1940 [15]締結

② 1938 ドイツ[16]を併合

→チェコの[17]地方の併合をめざす

③ 1938 [18]会議

英、仏はドイツの反共主義に期待しチェコ侵略を容認=[19]主義をとる

↓

④ソ連の不信→1939,8 [20]条約を締結

+あわせて秘密議定書=東欧の勢力圏を決める、締結

⑤ [21]年9月1日ドイツ軍ポーランドへ侵入=第2次世界大戦勃発

⑥ 枢軸国…ドイツ(1939)、イタリア、ルーマニア、ハンガリー(1940)、ブルガリア、フィンランド、日本(1941)の7か国

連合国…イギリス、フランス(1939)、ソ連、アメリカ、中国(1941)など51か国

b、ヨーロッパでの大戦の推移

①ドイツ・[22]によるポーランド分割

②ソ連、[23]戦争、[24]を併合、ベッサラビアを獲得
国際連盟を除名される ←ルーマニアから

③「奇妙な半年」=西部戦線で動きなし→40年4月以降、本格的に侵攻開始

ア) 5月オランダ・ベルギーを經由しフランスに侵入=6月フランス全土を占領

フランス南部に親独=[25](ペダン元帥)政権樹立

→[26]将軍、ロンドンで自由フランス政府樹立

→フランス各地で[27]運動激化

イ) 1940[28]の参戦

ウ) 1941 バルカン半島に進出

→ユーゴ([29])やギリシアでのレジスタンス発生、対ソ関係の緊張

→ソ連、日中中立条約締結

ほぼ、ヨーロッパ大陸全土を影響下におく

エ) イギリス=[30]首相のもとで徹底抗戦を続ける

アメリカ…1941.8[31]法を成立させ、連合軍に武器などを援助

→12月の太平洋戦争勃発後、連合軍に参加

オ) ドイツ、[32]・ジプシーなどの絶滅政策、外国人を強制労働に動員

→各地で武装抵抗運動([33])発生